

なんで根づくの？



それは地域の皆さんが感じている「困り事」に対応しているから！
 そのため福祉コミュニティ形成事業を進めるに当たって地域福祉推進会議を開催！何に取り組むか？は地域の皆さんが決定。各地区で地域の「困りごと」を住民パワーで解決する方法や仕組みの話し合いからはじめました。

まずは話し合いで種まき！



花を咲かすにはまず種まきから！地域福祉推進会議で最初に行うこと、それは地域の課題「困りごと」調べることです。



地域福祉推進会議（横山地区）

例えば・・・

地区で生活する中で感じている「困りごと」

- ・近所付き合いが少ない
- ・高齢者独居の居場所や見守りが無い
- ・世代間の交流がない
- ・自治会加入者が減少
- ・子どもの遊び場が少ない
- ・自由に集まれる場所がない
- ・子育て世代を応援したい つながりたい
- ・・・etc

抽出されたいくつかの「困りごと」を分類し、さらに調査を通して解決に向けて取り組むべき「困りごと」を絞り込みます。

まずは、いろいろなアイデアを出し合います。その中で、地域で取り組める仕組みなどを考えていきます。

共通課題として

⇒地域から孤立しがちな人たちが楽しく地域デビューできるには？

解決に向けたアイデアを出し合う

- ・住民が自由に集まれる場所を見つける！
- ・世代間交流ができるイベント！
- ・地域の高齢者や子どもの見守り活動！
- ・赤ちゃんの誕生を地域でお祝いしたい！

いろいろなアイデアから、取り組む内容を考えます。

ポイント
 みんなが関わられるように、「気軽に」、「楽しく」取り組めることを考えます。

アイデアから、こんな取り組みの花が咲きました！！

- ・地域住民の交流の場「ふれあいの家めぐり」【橋本地区】
- ・三世代心でつながる街中央地区「世代間交流事業」【中央地区】
- ・ひとり暮らし高齢者等の見守り活動「支え合い（愛）相武台」【相武台地区】
- ・新生児世帯への手作りおもちゃ配布「こんにちは赤ちゃん！さがみこ “ぬくもり” 支援事業」【相模湖地区】

地域に花が咲くのは地域に必要な種をまいたから！

福祉コミュニティ形成事業実施状況

平成25年3月現在

福祉コミュニティ形成事業は各地区の地区社会福祉協議会が取り組んでいます。

- ① 橋本地区 常設の交流の場「ふれあいの家めぐり」を設置・運営
 - ③ 城山地区 小地域の交流の場「原宿なごまーる」・「若葉ほっこりーな」を定期開催
 - ④ 津久井地区 小地域をモデル指定し、お年寄り等の日常的な支援の仕組みや見守り活動を実施
 - ⑤ 相模湖地区 子育て支援事業（子育てマップ、新生児が生まれた世帯へプレゼント）みまもりネットワーク（地域のお店による見守り）・自家用車を使った買い物支援
 - ⑥ 藤野地区 地域の中での孤立を防ぐ「たまり場」づくりを実施
 - ⑧ 清新地区 「ちょこっとボランティアくらぶ」（身近な地域でのボランティアの登録・調整）を実施
 - ⑨ 横山地区 平成24年度より「地域福祉推進会議」を立ち上げて検討しています。
 - ⑩ 中央地区 世代間交流を目的とした活動拠点を設置、世代間交流のイベントを開催
 - ⑪ 光が丘地区 ひかりサポートセンター（身近な地域でのボランティアの登録・調整）、常設の交流の場「光が丘にぎわい処」を設置
 - ⑫ 星ヶ丘地区 平成24年度より「地域福祉推進会議」を立ち上げて検討しています。
 - ⑬ 田名地区 田名ボランティアセンター（身近な地域でのボランティアの登録・調整）を設置
 - ⑭ 麻溝地区 平成24年度より「地域福祉推進会議」を立ち上げて検討しています。
 - ⑯ 相模台地区 「地域での活動の仕組みづくり」と拠点整備について検討
 - ⑰ 相武台地区 ひとり暮らし高齢者の見守り活動「支え合い（愛）相武台」を実施
 - ⑱ 東林地区 交流の場「東林いこいの広場」、新たな地域活動の担い手づくり「東林いきいき塾」
- 平成25年度から ② 大沢、⑬ 大野中、⑲ 新磯の3地区が検討をスタート！



今後、各地区で福祉コミュニティ形成事業取り組み開始準備中！

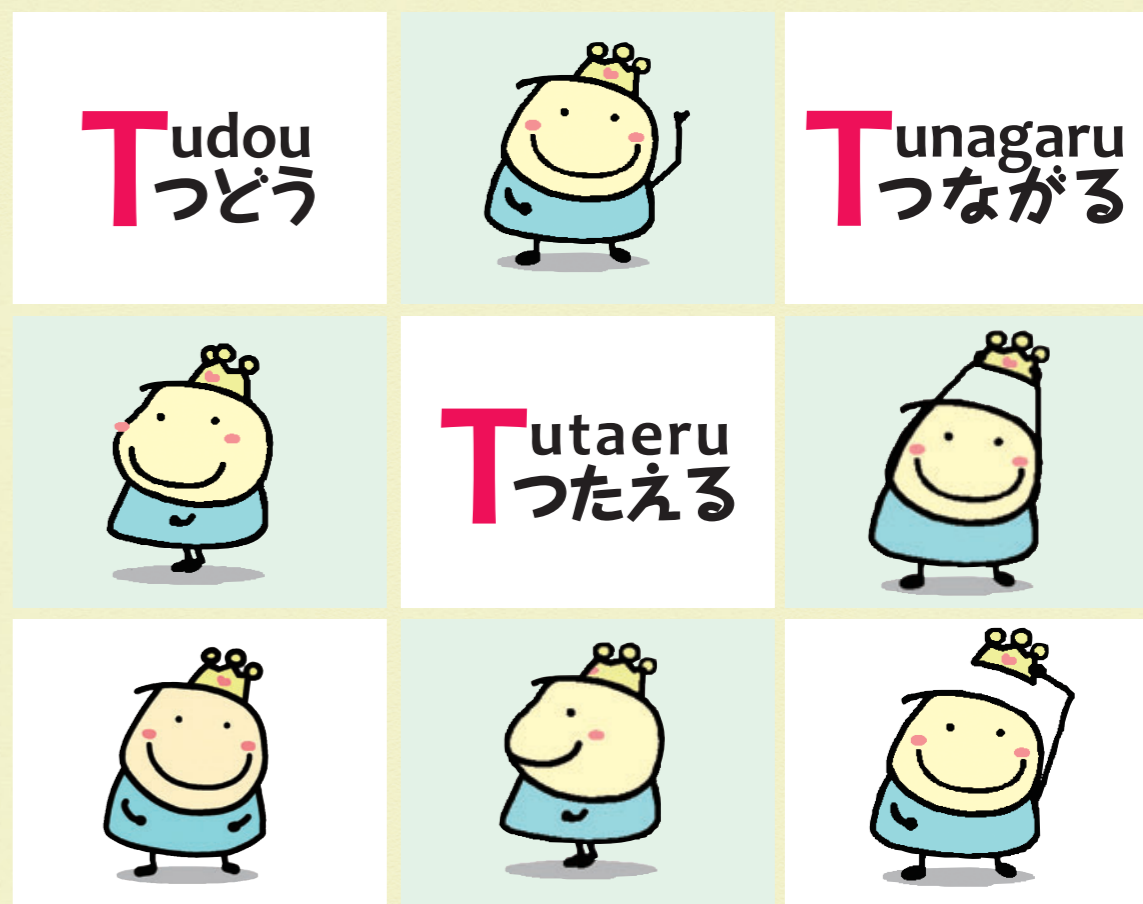
【福祉コミュニティ形成事業に関するお問い合わせは？】

社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 福祉推進課地域福祉係
 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20
 電話 042-756-5034 ・ FAX 042-759-4382
 詳しくはホームページをご覧ください。
 ホームページ <http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/>



3つのTが地域に根づく花が咲く！
 楽しく「ふくし」でまちづくり

福祉コミュニティ形成事業のすすめ



地域福祉は誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の方々と行政や福祉の専門家が協力して福祉課題の解決に取り組むものと言えます。

ここで紹介するのは、地域の福祉課題である孤立や孤独、そしてその解決策として住民の絆づくり等について、各地区の社会福祉協議会などが中心になって、住民自身が調査や話し合いなどをしながら創り上げた助けあい活動の実践の数々です。

相模原市
 社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会

福祉コミュニティ形成事業は、地域福祉活動の推進役として地区社会福祉協議会が中心となり、地域の皆さんで「困りごと」の解決策を考え、支え合いのまちづくりを目指すものです。

相模原市はこのような取り組みの過程を含めた実践を「福祉コミュニティ形成事業」と定め「相模原市地域福祉計画」の重点事業に位置づけて、活動財源の支援を行っています。また相模原市社会福祉協議会は「福祉コミュニティ形成事業」に取り組む地域の方々へ必要な情報の提供等を行っています。



橋本地区社会福祉協議会



“ぬくもり”あふれるまちづくりに向けた地域住民の交流の場

庭にはいつも綺麗な花が植えてあり、日当たりも良い場所。橋本商店街を抜けたところにたたずむ、ふれあいの家橋本「ぬくもり」。

橋本地区では、年々都市化が進み、昔のような近所つき合いや地域のつながりが少なくなっています。橋本地区社協ではそうした課題解決の一助になればと、橋本駅近くの一軒家を借り受け、橋本地区社会福祉協議会活動センターふれあいの家橋本「ぬくもり」を開所しています。



園芸教室



料理教室

「ぬくもり」では、庭を利用し、花植えをしながらおしゃべりを楽しむ「園芸教室」、健康増進・予防の学びを体験する「健康増進整体・マッサージ教室」、高齢者向けのサロンや、親子向けの子育てサロンの開催など様々な住民同士の交流会を作る交流活動をしています。

子育てサロンは「ぬくもり子育てサロン」として、昔ながらの庭で外遊びもできるサロンです。料理教室なども開催していて、地域の先輩お母さんが新人お母さんに料理を教えるなど、世代間交流の場ともなっています。

藤野地区社会福祉協議会

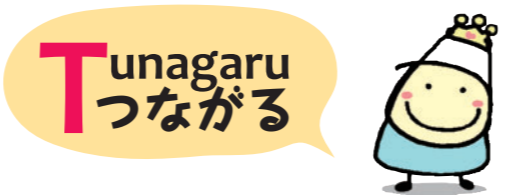
世代を超えて交流できる「たまり場」づくり

藤野地区では、年齢に関係なく地域に住む一人ひとりが孤立しないように、気軽に集まり世代を超えて交流できる「たまり場」作りに取り組んでいます。

もともと高齢者のつどいの場「サロン」が活発な地区で、既にある活動を活かしながら、小学生から高齢者まで集まれる「たまり場」をつくり、世代を超えた地域の絆が深まっています。



たまり場



中央地区社会福祉協議会



三世代心でつながる街

中央地区では、地域の人の出会いの場をたくさん作ることで隣近所の「つながり」を強めようと、趣向を凝らした行事や定期的な集まりを開いています。キーワードは世代間交流。

地区社協と自治会の共催で「三世代レクリエーション大会」を開催。赤ちゃんからお年寄りまで集まり、近所でも知らなかった人と知り合ったり、あいさつ程度のご近所さんと仲良くなったり、みんなが笑顔になれるつながりができました。



三世代レクリエーション大会

相模湖地区社会福祉協議会



気軽についでに地域で見守り！



「みまもりネットさがみこ」協力店

相模湖地区は市内でも最少子高齢化が進んだ地域。地区社協では高齢者の「見守り」の「仕組み」について、地域の強みを活かした取り組みを考えました。

それが「みまもりネットさがみこ」です。地域の強み、それは「顔見知り」と考え、目を付けたのが地域のお店です。相模湖のお店はお客様と長いお付き合い。お客様がどこの誰であるかを良くご存じです。そこでお店の日頃のお仕事のついでに、例えば「支払いの時、お金を出すのにいくら出してよいかかわからず困っている様子を感じた。」など、お年寄りのちょっとした変化をキャッチして地域包括支援センターや民生委員等相談機関につなげていただいてはどうか？これなら負担感が少なく、気軽にできて効果も大きいのでは？と考えました。

協力店は写真のステッカーが目印です。

田名地区社会福祉協議会



地域住民による支え合いの活動の仕組み「田名ボランティアセンター」

田名地区では、「地域住民の困りごと」に対する「地域住民による支え合い」の活動の仕組みとして、田名ボランティアセンター（以下 田名ボラセン）を運営しています。立上げの目的としては、新たな個人ボランティアの受け皿づくりという意味もありました。

センターの開所日は毎週火曜日と土曜日（10:00～15:00）で、19名のコーディネーターと61名のサポーターの皆さんが活動しています。

また、「支えあい・助けあい」の気持ちが田名に根づいていくことを目指して、ボランティア講座の開催や、中学生のボランティア体験の機会を作るなど、ボランティア活動への啓発も行っています。



中学生の福祉施設ボランティア体験



光が丘地区社会福祉協議会



生活の中でのちょっとした「困りごと」を解決するために

昔、お隣さん同士で助け合っていた「ゴミ出し」、「電球の交換」のような生活の中でのちょっとした「困りごと」。今、光が丘地区では「サポート隊」が「困りごと」の解決のお手伝いをしています。

地域の皆さんが「サポート隊員」として登録し、「気軽に無理なく楽しく」をモットーに「買い物」や「草とり」など、ご近所同士の助け合いの活動をしています。

「困っている…」の声に応える「サポート隊」の活動が、地域でたくさんのひとを笑顔にしています。



光が丘にぎわい処

地域の中でおしゃべりできる場があったらいいな…

光が丘地区でのもう一つの取り組みが「にぎわい処」。さまざまな世代の方たちが気軽に立ち寄り、お茶や食事を楽しみながら交流する場として週2日（火曜、木曜）オープンしています。

いつも笑い声が絶えず、仲間づくりの場になっています。

東林地区社会福祉協議会



福祉活動の担い手づくり、学びの場づくりを目指して

ボランティアに興味はあるものの、どんなことをするのかわからないという方やボランティアを通じて仲間を増やしたいという方などのために、地域で行われているさまざまな福祉活動を紹介し、地域福祉活動を支える仲間になってもらえるように「東林いきいき塾」を年6回開講しています。

気軽におしゃべりをして食事也能る気軽ないこいの場

高齢者や地域のみなさんの交流の場（軽食もあります！）として「東林いこいの広場」は月2～3回、また「木曜喫茶」は毎週木曜日にボランティアさんによって運営されています。

いこいの広場にきた人からは「初めて来たけど、みなさんが気さくに声をかけてくれるし、カレーもおいしい。また来ます。」と好評です。



東林いきいき塾

以上の取り組みは、
広報 社協さがみはら みんないいひと
「シリーズ 楽しく「ふくし」でまちづくり」より
抜粋しました。

